

クラスター	炎症・免疫系クラスター		
授業科目名	炎症学(Ⅰ)・実習		
担当者名	責任者	今井 一博	分担者
単位数	1単位(選択)		配当年次
授業形態	講義	実施場所	授業計画の[実施場所]を参照
開講期間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します		
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します		

授業の概要・到達目標

授業の目的: 肺癌における免疫腫瘍学(ⅠO)療法の現状と、その展望について理解することを目的とする。
また、肺癌診療における、呼吸器外科領域のガイドラインと免疫療法について学ぶことを目的とする。

授業の到達目標: 肺癌における免疫腫瘍学(ⅠO)療法を理解し、説明することを目標とする。また、肺癌診療における、呼吸器外科領域のガイドラインと免疫療法を習得し、実践することを目標とする。

授業の概要:

2,3,4,5. 肺癌における免疫腫瘍学(ⅠO)療法の進展は、革新と試行錯誤の歴史である。世界初の免疫チェックポイント阻害薬(ICI)であるニボルマブの第Ⅲ相試験(CheckMate-026)は、非小細胞肺癌の一次治療における単剤療法の可能性を模索したものの、主要評価項目の無増悪生存期間(PFS)において化学療法に対する優越性を示せず、臨床開発の難しさを浮き彫りにした。一方で、ペンブロリズマブを用いたKEYNOTE-024試験では、PD-L1発現率50%以上の症例に限定した戦略をとることで、PFSの有意な延長を証明した。これら対照的な試験結果の背景には、適切なバイオマーカーによる患者選択の重要性が存在する。本講義では、こうした開発史を概観した上で、現在の肺癌薬物療法におけるICIsの臨床的位置付けと、個別化医療の展望について詳説する。(担当:今井)

6,7,8,9,10. 肺癌診療における最新の呼吸器外科領域のガイドラインを紐解く。肺癌の周術期薬物療法における最新のトピックは、免疫チェックポイント阻害薬(ICIs)と殺細胞性抗がん剤の併用療法である。術前補助療法を検証したCheckMate-816試験などの第Ⅲ相試験において、高い病理学的完全奏効(pCR)率および無イベント生存期間(EFS)の有意な改善が示され、臨床現場での標準治療が確立されつつある。ICIsの最大の特徴は、投与終了後も治療効果が持続し、生存曲線の裾野が維持される「Long-term tail-off effect(ロングテールの法則)」にある。当講座では、世界初の「薬剤誘導型PD-1発現細胞・運命系譜マウス」を用いた独自のアプローチにより、この長期治療効果を支える細胞動態や免疫学的メカニズムの解明に挑んでいる。本講義では、最新の臨床エビデンスを概観するとともに、基礎研究の視点から周術期免疫療法の将来展望について詳説する。(担当:今井)

授業計画

	講 義 題 目 (講 義 内 容)	担当教員	講座名 〔実施場所〕
1	レポート提出の案内	今井 一博	胸部外科学 〔講座カンファレンスルーム〕
2	肺癌における免疫腫瘍学(ⅠO)療法の現状	今井 一博	
3			
4			
5			
6	呼吸器外科領域のガイドライン	今井 一博	
7	周術期における免疫腫瘍学(ⅠO)療法の展望	今井 一博	
8			
9			
10			

授業形態および成績の評価方法・基準

講義室(研究室)での講義30時間+自学自習15時間、計45時間で1単位とし、評価は出席状況と口頭試問および筆記試験の結果、提出したレポートの内容を考慮して行う。

問い合わせ先(氏名、メールアドレス等)

今井 一博, karo@doc.med.akita-u.ac.jp

その他特記事項

履修に関する情報: 社会人大学院生など、勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。

教科書・参考文献: 必要に応じて資料を配付する。または、文献を指定する。

自学自習時間における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。